

2020年6月10日

## 【5月版】「緊急！大学生・院生向けアンケート」院生結果報告

全国大学生生活協同組合連合会  
広報調査部

### 1. はじめに

新型コロナウイルスへの対応で日本中が混乱する中、大学生の生活も大きく変容しています。私たち大学生協は、今後の大学生活のありようや大学生協として取り組むべきテーマを具体化するために、4月に「緊急！大学生・院生アンケート」に取り組み、大学院生1,700名を超える方からご協力いただきました。

今後の学生の状況と心境の変化を把握するために、第2弾として5月もアンケートを実施し、500名を超える方からご協力いただいております。アンケート結果を公表することにより、この状況下にある大学生・院生への理解を深めていただき、今後の大学生活の向上につながることを願っています。

### 2. アンケートの概要

このアンケートは、全国大学生協連、2つの大学生協事業連合、各大学生協のホームページや、生協利用者へ拡散を呼びかけて募集したWebアンケートです。調査対象は全国の大学生、大学院生で、調査期間は5/20(水)～5/30(土)です。

・調査方法 Web調査(大学生協ホームページや生協利用者へ拡散をよびかけて回答を募集)

・調査対象 全国の大学生、大学院生

・調査期間 5/20(水)～5/30(土)

・回収数 院生 504 回答(4月も回答 207名・初回答 297名)

・アンケート結果についての注意点

※匿名性による学生以外の回答や複数回答、不適当な回答などの可能性があります。

※「学生の消費生活に関する実態調査」や「保護者に聞く新入生調査」の調査方法(全国大学生協連会員生協の組合員から無作為に調査対象を抽出)と異なり、回答数の多い大学や学年があるなど、アンケート結果の代表性は明らかにできません。

### 3. 院生向けアンケートの自由記入欄に寄せられた声

#### (1) 経済的な面で不安の声が寄せられています。

【自由記入欄より】

- 歯学部大学院生です。バイト先の総合病院、自分の大学病院の仕事が4月から減少し、5月は仕事がありませんでした。それに伴い、6月は無収入です。しかし、非常勤医師のため、休業補償等はなく、大学院生ということから大学からの援助金はありません。(学生課に確認済み)ただでさえ、通常時も研究と診療も両方やらざるをえず、週6で働いています。どちらにせよ、収入がなく本当に困っており、貯金を切り崩している状態です。国家資格があるからと、コロナの状況下で給付が全くないのは、辛いです。医師や看護は仕事があるとは思いますが、歯科はありません。東京(私立大 D3 女性・自宅生)
- 前期に予定されていた学部生向けの授業が1つ無くなり、TA勤務が無くなったため、アルバイト収入が半減した。自宅で研究を進めるため、プリンターインクや紙、本来なら図書館で借りられる本をたくさん購入して、その費用がすごくかかっている。大阪(国立大 M2 女性・自宅生)

- 親の収入が減ったことで、妹の生活費や学用品の費用を自分が負担している。自宅生は経済支援の対象外になりがちで困る。(国立大 M1 女性・自宅生)
- 自宅生だが、食費光熱費を除く日常生活費と学費をすべて自分のアルバイト代&奨学金で負担している。アルバイト代は 2 ヶ月ぶんゼロになったが、一人暮らしをしていないので学費の減免や学生対象の給付金が受けられない。(国立大 M1 女性・自宅生)
- 学費や生活費を、奨学金とアルバイト収入でまかなうつもりとはいえ、両親の年収がとて低いわけではないため、授業料免除は採用されません。また、大学院生は、給付型奨学金や修学支援新制度に関しては、そもそも対象外です。生物系の研究室に所属しているのですが、実験や生き物の世話があるため、授業がなくてももちろん帰省はできません。来年、就職活動と修士論文発表があることを考えると、ほとんどアルバイトはできないと予想され、卒業までの 2 年間の生活費をまかなえらるとはとても思えません。(国立大 M1 女性・一人暮らし)
- 保護者の給料が減ったので仕送りを減らさざるを得ないという連絡が来た。このさき、自分が定職を得るまで保護者にある程度頼る可能性があったが、見直さざるを得ないかもしれない。(国立大 D2 女性・自宅生)
- 親が高齢者なので頼りづらく、自分の所有物を切り売りしながら生活しています。现阶段では奨学金があるのでそこまで緊迫していませんが、第 2、第 3 の感染の波が広がる場合に耐えられるかどうかは難しいところではあります。(国立大 M2 男性・一人暮らし)
- 他大学では、TA として雇うことで学生支援をすと言っているところもあるのに、私の在籍する大学では、むしろオンライン授業に TA は不要であるとして雇用予定だったにもかかわらず、これを取り消されることとなった。現在政府の学生支援案が挙げられているが、「これまでやっていたバイトがなくなった」というわけではなく、「これからやる予定だったバイトがなくなった」という自分のケースは対象にならないのではないだろうかと不安に思っている。(国立大 M2 男性・一人暮らし)
- 社会人学生で、仕事をしながら夜大学院の授業を受けています。日本学生支援機構の奨学金は、所得基準で借りられない。家族を養うお金や住宅ローンの返済もあり、経済的にかなり厳しい。所得が減った人への救済も必要だが、中間所得層に対する補助は、国も大学も検討してくれない。こんな稀なケースでは誰も相手にしてくれない。(公立大 M1 男性)

(2) 授業や研究活動に関する悩みや困っている声が寄せられています。

教員への相談や院生同士の議論・意見交換等の減少について、悩みが寄せられています。

【自由記入欄より】

- 海外調査地に行けなくなったため、研究計画を大幅に変更する必要があるが、文献調査などが十分にできない。特に外国語文献は ILL で国内の他の大学図書館から取り寄せることが多かったため、こうした文献の取り寄せが所属大学の図書館で停止していることの影響が大きい。(国立大 M1 男性・自宅生)
- オンライン動画で聞き洩らしたところや理解できなかったところを何度も聴くことができるメリットはあるが、教室の先生に気軽に質問できる状況にはない。友達にちょっとしたことなどを尋ねることもできない。教室にいれば、目や耳や雰囲気等から入ってくる情報で、自分で判断することができるが、そのような情報がない。(国立大 M1 男性・自宅生)
- 大学の入構制限があったため、図書館に入れなかったのが厳しかった。しかし先日の緊

急事態宣言解除により、その困りごとは解消されると思われる。(国立大 M2・一人暮らし)

- 実験がメインの研究なのですが、毎日面倒を見る必要はないので現状研究室には入ることができません。しかし同じ研究室の同期は計算機があればできる研究を行なっているのに、私との進捗の差が大きくなっており焦りを感じています。(国立大 M2 男性・一人暮らし)
- 研究活動そのものというわけではないが、通信料が気になる。テザリングでパソコンの通信をして研究活動をしていることもあり、月の通信料が膨大になってしまう。携帯キャリアの通信料無償提供が 6 月 30 日まで伸びてくれたので助かっているが、今後どうなるかは不安材料である。(国立大 M2 男性・一人暮らし)
- 図書館が閉まっているので本が借りられない。また、フィールドワークが一切ストップしてしまい、研究の核になるところが全くできない。研究内容の変更を余儀なくされている。(私立大 M2 女性・自宅生)
- 早く実験を再開しないと修士論文に間に合わない。奨学金の免除申請のために早く結果を出さないといけないのに実験が禁止されているから焦りがある。(国立大 M1 男性・一人暮らし)
- 家にいると研究仲間に会えないなど刺激が少なく、モチベーションが下がって研究が進まない。図書館に行けず、欲しい本がすぐに手に入りづらい。通信販売で購入しても届くまで時間がかかる。(国立大 M2 女性・自宅生)
- オンライン授業の準備やその他事務作業などによって指導教員が多忙になり、研究の指導が返ってくるまでに時間がかかるようになった。進捗が遅くなったので、計画通りのスケジュールで研究を進められるか不安。(国立大 M2 女性・自宅生)
- オンラインのゼミは対面型と比べて教員や他の院生とじっくりと話せないのが、研究を進めにくい感じがしている。(国立大 M2 女性・自宅生)
- 自宅での作業だと集中ができない。先生との研究についての相談はメールですることになっているが、メールをするほどでもないけど、議論したいことなどがあり、その環境がないのが少し困っている。(国立大 M2 女性・一人暮らし)
- 先生のアドバイスを受けることのできる機会が減った。今までは気軽に先生の部屋を訪れて聞いていたが、メール等での状況説明、アポイントメントが必要となった。(国立大 M1 女性・一人暮らし)
- 在宅の研究となり、ちょっとした意見交換等が気軽にできなくなってしまったため、ひたすらに自分だけで進めることがほとんど。(国立大 M1 男性・自宅生)

(3) 今後の進路(就職・進学・インターン等)に関して、不安の声が寄せられています。

【自由記入欄より】

- おさまっている見込みがないので、今年は教員採用試験を受けるのを取りやめました。教職大学院生には特別試験もあるのに、結局来年しか受けられないのは不利になったとは思いますが。様々な自治体で試験科目を減らして行われるとのことですが、それは採用の質の低下に繋がったりしないのかという疑問もあります。(国立大 M1 女性・自宅生)
- インターンがあるかどうか分からない。就職氷河期に突入しそうでインターンも多めに取りたいが研究室が許可してくれない。(公立大 M1 男性・自宅生)
- 現在就職活動中。ゴールデンウィーク(ステイホームウィーク)が明けて WEB メインではあるが選考が再開し始めた。おそらく通常の就活と同じだろうが内定をいただけないと悩むところがある。また今後どの企業に就職するか決める際に、エントリーした

けれども直接企業に訪問できていない企業もあるため、判断が難しいと感じるとともに、もしかしたらこの就職活動中に直接お会いすることができなかったことが3年以内の離職などにつながってしまう可能性も21卒の人たちにはあるのかなと思う時がある。(国立大 M2 男性・一人暮らし)

- 大学教員の公募はかなり狭き門になっている。こうしたことについては今に始まった話ではなく、この30年の間にずっと進んできたことなので、承知の上ではあるが、なんとか大学が学問的な機能を維持するだけの文教予算がついてほしいと願っています。また、教員などのテニユアの仕事に就くまでにかかる時間、ギャップがどんどん大きくなっていることへの不安が大きい。今回のコロナでまたそれが伸びていくのではないかと、その間どうやって食つなぐかという不安が増した。パートナーとのライフプランの相談が必要だが、向こうの仕事も大変なので気が重い。(国立大 M1 男性・自宅生)
- 今回のコロナをうけて、博士課程進学を諦めました。これ以上大学に残れるだけの経済力がありません。端的に言えば学費が高過ぎると思います。(国立大 M1 男性・一人暮らし)
- 経済活動への打撃がある今、博士課程卒業後ポスドクなどの臨時職員として十分な給与が得られるか心配である。また、もともと就職口の少ない研究職を目指していたが、就職できない可能性が高まったので、進路希望を変更すべきか悩んでいる。(国立大 D3 女性・自宅生)
- ただでさえ少ない授業がいつあるかわからないため、このまま9月に授業が集中するとインターンと日程が被る可能性が高く、来年後期に授業を受けることになりそうです。さすがに生活が苦しすぎます。また、来年おそらく企業からの募集も減ると考えると、自分は推薦もないため、どこかで妥協しなければならないのではないかと、内定もらえないまま就職浪人することになるのではないかと、それなら中退して既卒での就職活動に備えた方がいいのではないかといろいろと不安です。(国立大 M1 女性・一人暮らし)

(4) 社会・国に対して伝えたいことが声として寄せられています。

- ・ 修学支援新制度や学生支援緊急給付金の申請条件等に不満が寄せられています。
- ・ 大学への支援や高等教育への財政支出について不満が寄せられています。

【自由記入欄より】

- 大学院生も学生です…。助けてください…。同い年の人とは違い、自らの稼ぎ口をもっていないひとが多いです。ただ、おなじ研究室の大学4年生は高等教育支援新制度の対象で保証を受け、大学時代の同窓は会社から保証を受けているのに、私たち大学院生は正直親しか頼る宛がありません。(公立大 M1 女性・一人暮らし)
- 大学は社会の公的な財産です。これは国公立も私立も関係ありません。院生の研究が継続できるように、学費の軽減などの施策が今度こそ大学院生にも行われることを望みます。そもそも院生が修学支援新制度の対象外なのがおかしい。(国立大 M1 男性・自宅生)
- 困窮学生に対する支援に関するニュースで、大学は義務教育ではないのだから保証は不要との意見が目立っていましたが、学生は学費を捻出せねばならず、学費が捻出できないと退学になり露頭に迷うひと多いはずで、何もなければ取れたはずであろう学位を失うことは、今後の人生に大きく影響します。またコロナにより優秀な人材がうもれてしまうのは、日本の未来にとって大きな損失です。つまり経済的に困窮している学生は、他の人々よりも手厚く保護されて然るべきだとおもいます。(国立大 M1 女性・自宅生)

- 我々院生の大多数が、将来的に国に貢献しようと考えて日々研究をしているのですから、それに対して支援をしていただければと思う。コロナ禍の見舞金だけではなく、今回をきっかけに、博士課程の学生への支援も拡充させてほしい。次の選挙は、そういう人を選びます。(国立大 M2 男性・一人暮らし)
- 追加で学生への一律現金給付を行って欲しい。未来への投資を出し渋るのはおかしい。先日の学生給付は要件が厳しく、また評価基準がバイト収入に偏っている。個別に様々な事情を抱えているため、学生全員が安心して学問に励めるような現金給付が必要。(国立大 M1 男性・一人暮らし)
- 大学院生は、先行研究や研究に関わる資金が多く必要です。ですが、コロナウィルスの影響で図書館に行けない、大学で指導教官からの指導を受けることができない等十分な教育環境ではなく、それを賄うための資金も大変不足しています。大学生への支援のみならず、大学院生にも、支援金の拡充や研究活動に関わる援助をしていただきたいです。(公立大 M1 女性・自宅生)
- お金の余裕がないと、誰もが不安になると思います。先が見えない状況が続くことも不安定材料の一つです。是非、授業料は国から大学へ直接補助をし、半期でも免除か減額をお願い致します。これは大学側も設備投資し建物保持するために収入が必要だからです。またこのアンケートから多くの学生がアルバイトしながらの生活を常にしてきた現実が見えるかと思しますので学生(留学生、未就職既卒含)に給付金を十分に一律に迅速に与えるよう要請をお願いいたします。パソコンや書籍などはそのお金で買いたいです。(国立大 M2 女性・自宅生)
- 対象人数が少ないために学生給付金を受けるのを遠慮している状態です。対象人数を増やしてください。(国立大 M2 男性・一人暮らし)
- とにかく学費が高い、ということを広く認識してもらいたいです。(スキルや資格の有無を問わず)学籍があるというだけで最賃ぎりぎりの低賃金で働かされるのに、大学の研究専念規定があるので労働時間を延ばせず、ゆえに低収入に甘んじることとなります。それなのに、生活費に加えて学費を自弁するのは困難です。(国立大 M1 男性・一人暮らし)
- 学生に対する補償があまりに少なく、見捨てられている気しかしない。「大学院生に対する支援はこれから検討する」という首相の言葉に、いわゆる「大学」への支援のなかに「大学院生」は想定されていないのだろうと感じた。大学院生は学部生よりも経済的に困窮している。これは大学院生に対してだけではなく、大学全体で前期分の一律学費減額が実現してほしい。大学への経済支援に対して「大学には行かなくても働けるのだから、今困窮しているなら自己責任だ」というコメントを多く見て大変ショックを受けた。大学にだけ支援をし、後の人々には支援が必要ないと言っているのではない。必要としている人に必要なだけの支援が、税金からされるべきだと訴えているだけであることをわかってほしい。マスコミの報道の仕方も非常に切り取りが激しいと思う。大学生は「10万20万なんていらぬもつとよこせ」と言っているのではない。その中では退学をとどまることはできない、という意味である。特に、こんなにも留学生を誘致したにも関わらず、給付に日本人か留学生かで差を設けるといふ、典型的な人種差別は決して許されない。反省謝罪の後二度と行わないことを求める。(国立大 M1 女性・一人暮らし)
- 医療や介護に携わる方など、感染のリスクを抱えながらも命を守るために働いている方に敬意を表します。また、スーパーマーケットや電力・ガス・水道といったサービスを維持している方々のおかげで、現在の生活を継続することができているので、こうした方々には感謝しています。(国立大 M1 男性・一人暮らし) 以上